

皆さんも今まで大変な事をけいけんしたことがあると思います。つらい時は、悲しくな
って、悪いことしか考えられません。

私はある時、足を大けがしてしまいました。何週間も入院して、その後何ヶ月間もずつ
と家にいなければなりませんでした。

入院して車いすですごさなければならなかった時、友達が毎日のようにおみまいに来て
くれました。みんな学校がおそく終わって、自分のしゅくぐだいをしなければならなくても、
私がさびしくならないように元気づけてくれました。

時々、友達のぶんの車いすもぬすんで来て、病院の、人がほとんど行かない場所で車い
すのレースをしました。はじめ、お医者さんは何も知りませんでした。でも、ある日私た
ちを見つけて「やめなさい！」とさけんでおいかけました！私達はその車いすでにげまし
た。

友達が来てくれると、いつも楽しくなりました。このように、けがのおかげで本当の友
達を見つけることができました。

そして、その友だちとまた走り回りたいと思いました。だからリハビリをすることにき
めました。その練習が大変でつまらなくても、“がんばるね、出来るね！”と自分に言い
聞かせました。私は走ったり踊ったりスポーツしたりすることはできなくなりましたが、
ふつうに歩けるようになりました。

友達は学校の体育のマラソンで、いつも“ああ、もう死ぬうう、走りたくなーい！”と
言います。そして“マルタちゃんは走らなくてもいいから、うらやましいよ〜”と言いま
す。その時、友達やたくさんの人が自分の持っている物を全然評価していないことに気づ
きました。

日本の引き籠もりについて聞きました、その人たちは引きこもる前に、学校や仕事で大
変なもんだいがたくさんあったと思います。でも、そういう人たちに、もっとじぶんの持
っている物や人生をひょうかしてほしいと思います。そして自分の小さなもんだいを気に
する代わりに、いつもいいところを見つけてほしいです。

私はけがの後、たくさん良いところを見つけられました。そしてポジティブになりました。
これから、なにか大変なことがあっても、ポジティブに生きる事が出来るでしょう。

むかしは、どうぶつの医者になって馬に乗ることが私の夢でしたが、けがのせいで馬に
乗ることができなくなりました。でも今は、日本語を勉強することが大きな趣味で、日本
へ行くことが目的です。